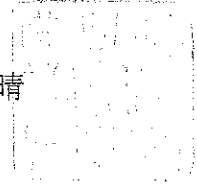


益議第35号
平成30年6月28日

益子町長 大塚 朋之 様

益子町議会議員 高野 美晴



益子町議会議員の新ましこ未来計画検証について

過日の全員協議会において、新ましこ未来計画の検証を行いましたので報告します。

記

- 1 協議日時等
平成30年5月30日(水)
16時00分から17時00分 全員協議会室

平成30年6月6日(水)
10時30分から11時00分 全員協議会室

平成30年6月20日(水)
15時30分から17時00分 議長室

平成30年6月22日(金)
11時30分から12時15分 議員控室

平成30年6月28日(木)
12時03分から12時05分 全員協議会室
- 2 検証結果等 別紙「提言書」のとおり

新ましこ未来計画に関する提言書

1. 基本目標 幸せを感じる暮らしをつくる

- ① 人口動態の目標値に向けた、子育て・婚活・移住定住のほか、若者が出ていくのを止める施策が必要である。若者が交流できる場所、意見を吸上げる場所をつくることできれば、婚活・定住に繋がられるのではないかな。
- ② 高齢者がいきいきと暮らすためには、外出等社会との交流が大切。行動範囲を広げるため、現行のデマンドタクシーを含め移動手段の利便性向上と経済的負担の軽減を検討してはどうか。

2. 基本目標 風土に根ざした産業をつくる

- ① 農業と観光を基幹産業にするためにも、道の駅ましこ等の農産物出荷者の安定化が必要である。そのためには、新規就農者の確保や6次化等の強化、また受入・指導体制を整備し、移住と農業のマッチングにも積極的に取り組むべき。
- ② 益子焼販売促進のための海外販路拡大は、益子焼のみならず、所管課の連携体制を整え益子ブランドとして農産物や工芸品なども一緒にプレゼンしてはどうか。また、町民も益子焼にさらに親しみを持つよう国際工芸交流館やとちぎの器交流館などを活用できないかな。
- ③ 観光客入込数だけではなく、来町者の消費活動を促す仕組みづくりが必要。地域資産の周遊ルートとあわせ、滞在型に向けた施策をともに考えていく。

3. 基本目標 社会的に自立した人を育てる

- ① 心身ともに強い子どもをつくるには、社会教育・学校教育とともに家庭教育が大切であり、対人関係・集団行動・遊びなどから蓄えるスキルが大事である。保護者の相談・コミュニケーションスキルを高める施策も必要ではないかな。
- ② スポーツ離れが進む中、1校だけでは部活動が成り立たない現状が顕著であり、文武両道を目指せる環境をつくらなければならない。
- ③ 「益子が好きな子」を育み増やすため郷土教育に力を入れ、小中学校に限らず町内にある学校との連携を深めるべき。

4. 基本目標 地域資産を蓄積する

- ① ランドスケープデザインも始まるので、景観条例を早急に進めるべき。開発の進行で里山の美観が損なわれないよう、今から環境審議会等で検討を。
- ② 自治会などの社会奉仕活動が少なくなっているため、地域資産を守るボランティア活動を家族ぐるみで実施することを推進してはどうか。

5. 基本目標 健全な経営体を持続する

- ① 公共施設総合管理計画で16%減らすはずが未来計画推進のための建設で増えており、相反する状態。削減の計画を具体的に立てるべき。
- ② 自助・共助・公助の精神を持った人でつくるコミュニティーは強靱なまちへと繋がるので、弱体化している既存組織の強化を図るべき。